

世界屈指のモス 畑戸利江子さん



モスクワ国際バレエコンクールの舞台上で華麗に踊る畑戸さん。「思いきってのびのびと踊れました」

「バレエが好きだから頑張る」気持ちを胸に 厳しい練習に耐え、憧れのコンクールに出場

[白鳥の湖]に感銘を受け
小学1年からバレエの世界に

1969年から4年に1度、モスクワで開催される「モスクワ国際バレエコンクール」。ロシア文化省が主催し、ジュニア部門・シニア部門・振付部門の3部門ともにアマチュアだけではなくプロとして活躍中のダンサーも参加するほど難易度の高いコンクールで、世界の主要バレエコンクールのひとつに数えられています。今年6月にモスクワ・ポリショイ劇場で行われた第12回大会に高校1年の畑戸利江子さんが出場。ジュニア部門ペア女子で見事3位(銅賞、2位は該当者な



クワ国際バレエコンクールで がジュニア部門ペア女子3位に

世界に名だたるバレリーナもその舞台を踏んだ、栄光のモスクワ国際バレエコンクールに
高校1年の畑戸利江子さんが出場、見事ジュニア部門ペア女子の3位に輝きました。
小学生のころから厳しいレッスンに励み、国内外のコンクールに出場してきた畑戸さん。
そのバレエに対する情熱とこれからの思いや優しい素顔の一面、
そして畑戸さんを応援するクラスメイトや先生の心温まるサプライズ企画などをご紹介します。



し)を受賞しました。

畑戸さんがバレエを始めたのは4歳のとき、家族と一緒に見に行ったバレエの舞台がきっかけです。華麗に舞う[白鳥の湖]を見て、「私も踊ってみたい」と思った畑戸さんはバレエのレッスンを開始。小学校1年のときに現在所属する『テアトル・ド・バレエカンパニー&アカデミー』に入団してからはほぼ毎日レッスンを行い、3年生から国内のコンクールに出場。6年生でアメリカのコンクールにも出場し、優秀な成績をおさめるなど、これまでに数々の輝かしい賞を受賞しています。



「私は身長が低いことが不利ですが、その分技術で補って頑張っています」と畑戸さんはいいます。体力的に辛かったり、思うように動けなかったりする時も「バレエが好きだから頑張ろう」という気持ちで練習を行っています。

華やかな世界の舞台で 楽しく自分の踊りを披露

バレエの先生の勧めで挑戦することになった今回のコンクール。ペアのパートナーであるロシア人のイリヤ・アルタモノフさんは2度来日、その間は1日に7時間ほどレッスンを行いました。「お互いに英語も片言でしたが、同じバレエをしているので気持ちが伝わった」と畑戸さんも懸命にコミュニケーションを図り当日に臨みました。

コンクール当日はファーストラウンドで[パリの炎]を披露。セカンドラウンドでは[海賊]を、決勝では生の



喜びの表情を満面にたたえの授賞式の様子

オーケストラ演奏をバックに勇ましい[ドンキホーテ]を踊りました。「セカンドラウンドを通過できた日本人は少ないと聞いていたので嬉しかった」と話す畑戸さん。今回の大会でもファイナルラウンドに進んだ日本人は、すべての部門で畑戸さんただ一人。決勝では家族やバレエ団の先生に「思いきり踊ってきて」といわれ、力を出し切って踊ったといいます。「憧れの劇場で踊れるので緊張よりワクワクした気持ちのほうが大きく、世界の舞台上で踊れることがとても気持ちよかったです」と当時の高揚感を振り返ります。

世界のダンサーの踊りに刺激を受けた畑戸さんはあらためてバレエの奥深さを実感。海外で活躍できるダンサーをめざし、今後も頑張っていきます。

素顔の畑戸さんはクラスの中でも人気者 授業を終えるとバレエに打ち込む高校生

明るい笑顔で優しい人気者
いつも頑張る姿に感動

世界のコンクールで華々しく活躍する畑戸さんですが、普段は多くの友人たちと毎日楽しく学校生活を送っています。いつもニコニコと笑顔をやさしい畑戸さんはクラスでも人気者のひとり。「とても優しい性格で、一緒にいると私も優しい気持ちになります」と中学時代からの友人、中村理乃さんも話します。

その優しい表情とは裏腹に、踊っている時の表情は情熱的で真剣そのもの。モスクワ国際コンクールの映像を見た中村さんも「実際に踊っている姿を見て、真剣な表情とその技術にとっても感動しました。畑戸さんは辛いことがあっても弱音を吐かず、いつもしっかりしていてとても頼れる人です。普段の生活では喜怒哀楽をあまり出さず、いつも穏やかなのですが、バレエの話をするときはいつも楽しそう。モスクワで踊っている姿はとても感情豊かで、見ていて驚きました。これからも夢に向かって頑張ってもらいたいです。」と話してくれました。

担任の武岡基先生も「畑戸さんが所属するバレエ団の公演を先日観ましたが、普段は小柄で華奢な畑戸さ

んの踊る姿がとても大きく輝いてみえました。一生懸命何かに打ち込む姿はとてもすばらしいと思いました。これからも畑戸さんらしさを大切にして自分の夢に向かって頑張ってもらいたいです。」と賞讃。幼い頃からずっとバレエを続け、つらいことや苦しいことがあっても弱音を吐かずに頑張り続ける畑戸さんの姿は、友人たちにも大きな感動を与えました。

勉強も学校生活も
基本を大切に努力

努力家の畑戸さんは、バレエと同じく勉強も一生懸命頑張っています。学校での成績もよく、「夜遅くまでバレエの練習をしているのに、その合間をぬって勉強をしているのはすごいと思います」と武岡先生も、その努力に感心されます。畑戸さんは勉強する時



穏やかな笑顔でいつも明るい普段の畑戸さん

間が限られるため、まずは授業で一生懸命勉強して理解を深めることを大切にしています。その結果が成果へと結びつくようです。

「バレエはもちろんですが、勉強や学校生活においても基本を忠実に守ろうと感じます。その真面目な姿に影響を受ける生徒たちも多いと思います」と武岡先生が話されるように、クラスでの係や掃除当番も、畑戸さんはどんなに練習で忙しくても手を抜かずにきちんと行います。またバレエでの活躍を自慢することなく、いつもにこやかで控えめなところもみんなに人気があるようです。武岡先生は「金城学院の生徒たちはスポーツや芸術など、目標を持って頑張っている生徒たちが多く、畑戸さんもそのひとりです。バレエと同じように、畑戸さんにとっての学校生活も楽しく輝かしいものであってほしいと思います」と畑戸さんの活躍をいつも温かく見守っていらっしゃいます。



畑戸さんとともにインタビューに答える友人の中村理乃さん



畑戸さんが教頭先生にコンクールの報告へ行く間に急いでパーティーを準備。クラス全員が一致団結して受賞をお祝いしました

クラスの仲間が中心となって サプライズパーティーを開催

畑戸さんがコンクールへ旅立つ前に、武岡先生が応援の手紙を書くことをクラスみんなに提案したところ、「私も書きます」と多くの生徒たちが賛同しました。畑戸さんに内緒でみんなそれぞれに「頑張ってね」と激励の手紙を書き、出発する前の日に畑戸さんに手渡ししました。手紙をもらった畑戸さんは大感激。モスクワへも持って行き、時間があるときには読み返し、みんなの応援に気持ちが励まされ

れたようです。

さらにクラスの生徒たちは畑戸さんのコンクール3位入賞を知り、帰国後にお祝いのサプライズパーティーを考案。武岡先生と相談し、中村さんを中心とする仲間が発起人となって誰が何を準備するかみんなで打ち合わせしました。お菓子を準備する人や黒板に絵を書く人、飾りを作る人などそれぞれに担当を決め、パーティーの準備をしました。

6月24日お昼休み、畑戸さんが教室に入ってきた瞬間にクラッカーを鳴らして「おめでとう!」「お疲れさま

でした!」とみんなで大歓声を上げながら歓待。突然の出来事に最初は驚いていた畑戸さんも、満面の笑顔でみんなに「ありがとう!」とお礼をのべ、その後はみんなと楽しくお菓子を食べながらパーティーを楽しみました。

「生徒たちが、いわれたからやるのではなく自主的にパーティーを計画し、実行したことで、生徒たちの成長を感じることができました。昼休みという限られた時間でしたが、クラスの団結心も一層高まった」と武岡先生は話します。またコンクールの練習で欠席や早退が多かったことに対しても「ちょうど畑戸さんがコンクールに出た時期は新しいクラスがようやく動き出したころ。その大切なときに畑戸さんはなかなかみんなとかかわる時間ができなかったのですが、今回の手紙やパーティーでクラス全員が応援している気持ちをわかってもらえたのでは」とみんなの思いを嬉しく感じられています。畑戸さんの活躍を見て、何か一生懸命打ち込む姿のすばらしさを生徒たちも実感しました。



「おめでとう!」の大歓声に畑戸さんも感動。クラスは和やかなムードに